

Rude-**α**

ラッパー



Rude-α (ルードアルファ)

1997年、沖縄市生まれ。2014年「第6回全国高校生ラップ選手権」で準優勝。2019年5月、EP「22(Nijyuni)」でメジャーデビュー。同年7月からはABEMAの恋愛リアリティーショー「オオカミちゃんには騙されない」に出演し注目を集める。アニメのオープニングテーマやラジオCMソング、テレビ番組テーマ曲など、ラップの枠にとらわれない多方面の音楽活動を展開中。

空手家

喜友名諒



喜友名 諒 (きゆな りょう)

1990年、沖縄市生まれ。5歳で空手を始め、中学3年から劉衛流龍鳳会の佐久本剛男氏に師事。世界空手道選手権大会の個人形で2014年、2016年、2018年、2021年と4連覇。2021年東京オリンピック男子空手形で県人初の金メダル獲得。全日本空手道選手権大会では、2012年から2021年まで前人未到の10連覇を達成。19回のプレミアリーグ優勝回数はギネス世界記録に認定された。

特別
対談

Special Dialogue

僕らの生まれたまち

東京オリンピック2020金メダリストの空手家・喜友名諒さんと、2019年にメジャーデビューし、海外からも注目されている新世代ラッパー・Rude-αは沖縄市の出身。ともに「ちゃんぷる～沖縄市大使」を務めるお二人に、子どもの頃の思い出や、沖縄市の魅力などについて語り合っていました。

— お二人は沖縄市のご出身ということで、子どもの頃の思い出をお話していただきたいのですが。

喜友名 曖昧ですけど、小さい頃、沖縄こどもの国にジェットコースターがあった記憶があります。

Rude-α ホントですか？ 僕は喜友名さんの6歳下ですけど、沖縄こどもの国のジェットコースターには乗ったことがないかもしれません。

喜友名 たぶん4・5歳くらい。乗りたいなあと思いながら見ていたという記憶がありますね。小学生になったらゲート通り(空港通り)とか一番街あたりを走り回っていましたね。休みの前の夜とか、親同士で居酒屋で飲む時も子ども同伴でしたから。子どもは食べた後は外で遊んだりとか。服もゲート通りで買ったとか。

Rude-α ゲート通りといえば、ラップとかヒップホップを始めた直接の理由ではないんですけど、中学生くらいの時に、友だちがいきなりダボダボの服を着てきたので、どこに売ってるのって聞いたら、ゲート通りで買ったと。それで僕もゲート通りで本物が偽物か分からないダボダボのTシャツを買って。2枚買うから1,000円安くしてみたいな。

— Rude-αさんは宮里出身ですが、子どもの頃はどこで遊びましたか？

Rude-α ゲート通りはやっぱり思い出深いし、もっと小さい頃だったら家の近くの空き地とか、廃墟みたいなところで良く遊んでいたんですけど。思い出があるのはゲート通りですね。でもデー

トするんだったら具志川(現うるま市)のジャスコとかメインシティなんですけど。宮里は具志川のとなりだったので。

喜友名 ダイエーは行かなかった？

Rude-α 昔、泡瀬にありましたよね。ダイエーも行きましたよ。トイザラスとかありましたから。

— 沖縄市の魅力はどういうところでしょうか。

喜友名 子どもから大人まで楽しめる街というところですね。動物園(沖縄こどもの国)があるし、泡瀬干潟で潮干狩りしたり、食べ物も美味しい店がたくさんあるし。本土から友だちが来ると、



沖縄市に連れてきて遊んだら喜びます。那覇より沖縄市が良いって。エイサーがあるし、音楽がどこでも流れているし、独特の雰囲気を楽しめるんだと思います。

Rude-α 沖縄全島エイサーもそうだし、ミュージックタウンもあるし、僕が子どもの頃の印象として、外に出るとどこからでも音楽が聞こえていたというのがあって、そういう雰囲気というのは他にはないんじゃないかな。週末とか街に出たら外国人も多くて、そこで外国のカルチャーだったり言葉に触れて、外国の友だちもできたりしたので、色々な人種、色々な音楽が混在しているというのが良いと思います。

本土の友だちが来ると、「コザはまじでヤバイ」って言います。独特の何かがあるんだと思います。週末の夜のゲート通りは日本じゃないですよ。ちょっと路地に入るとフィリピンみたいな、アジアの街みたいな独特の空気がある。

— 子どもの頃に聞いた音楽が、今のラップにつながっているんですか？

ラップの枠にとらわれず、音楽を通して
沖縄市の良さをアピールしていけたら。

(Rude-α)

Rude-α 直接、今のラップにつながってはいなくて、小学校2年生くらいの時に、ORANGE RANGEのライブを見に行き、音楽を初めて意識したんです、自分もあそこに立ちたいと漠然と思ったことを覚えていて、すごい目立ちたがり屋だったと思いますね。

— ラップの練習はどこで？

Rude-α ラップを始めたのは16歳の頃ですけど、きっかけは、沖縄市の美里公園で、バイト帰りに友だちとしゃべっていた時に、いきなり服がダボダボの奴が現れて、目の前でラップを始めたんです。やったことはなかったけど、僕が返したら、「お前、才能あるから、明日からラッパーになれ」って言われて。次の日から、そいつと一緒にラップを始めた。その頃は練習という感覚じゃなくて、言葉遊びみたいな感じでした。越来川の川沿いにある公園(越来城水辺公園)の東屋で、ずっとラップしていました。高校の部活を引退したらみんなボウリングやビリヤードに行きますよね。僕はその時期もずっとラップしてましたから、ボウリングとかビリヤードが今でもまったくできません。

— 喜友名さんはどこで空手を始めたんですか？

喜友名 幼稚園の頃、一番仲良かった友だちが「オレ、空手してるぜー」って言うので、自分もやりたいなと思って、両親に言って泡瀬の道場に入りました。その頃は遊びに行く感じだったので、道場に行って、練習というよりは、体を動かして遊ぶような感じです。

— 沖縄市の好きなところ、場所を教えてください。

喜友名 この「みやんち STUDIO&COFFEE」、好きですよ。気になっていたのが家族で食事に来て、沖縄そばが美味しかったです。今回、場所がここだったので、沖縄そばが食べられると思ってたんですけど、今日は定休日なんですね。

古謝の高台から見る泡瀬の景色は綺麗ですよ。昼間は海も綺麗ですし、夜は夜景が楽しめます。子どもとは近所の公園でよく遊んだりします。

Rude-α ゲート通りで友だちがバーをされていて、飲む時はだいたいゲート通りなので、あの辺りはとても好きです。行きつけの居酒屋があって、週に3回は行ってます。本土から友人が来ると必ず連れていきますね。

— 未来の沖縄市に期待することは？

喜友名 子どもが多いので、自分たちの世代が子どもたちの土台作りというか、自分は空手を通して、夢を持つきっかけをたくさん提供したいし、子どもたちが自分の目標をもって輝ける街になって欲しいなと思います。最近、沖縄市が子どもたち向けのイベントを毎週やっていますが、そういうことを一緒に協力していきたいですね。

Rude-α 子どもの頃、ORANGE RANGEのライブを見て「めっちゃいいな、この人たち」と思ったみたいに、自分もそういうきっかけを与えられるような人間でいたいですね。友だちも就職して、周りは現実を見ろよという感じなんですけど、僕は簡単にいうと大人子どもなんです。自分で夢見て、人にも夢を見せたいですね。沖縄市が音楽のまちと言われてはいるんですけど、もっと子どもたちにも楽しめる音楽イベントを作っていきたいなと思っています。それもあって毎年6月23日にはミュージックタウンでイベントをやっていて、音楽を通して子どもたちと一緒に踊ったり歌ったりできたらいいですね。コロナになってつくづく感じたんですけど、人間から音楽とか宴とかとったら駄目なんだな。宴のようなイベントが毎晩どこかでやっているような街になったらいいなと思います。

今はラッパーっぽい人も増えたんですけど、僕らの頃は、キャップを被っているだけで目をつけられたりとかありましたから。今はファッションスタイルとして受け入れられていますが、いまだにオバアから「あんたズボン上げなさい」って言われます(笑)。自由な雰囲気はこれからもずっと残って欲しいですね。

喜友名 自分は、今後、指導者としてやっていくので、空手を通して子どもたちと触れ合っ、簡単なことから言えば、礼儀作法とか挨拶とかをしっかりとできるようにして、大人になって、どこに行っても通用するような人づくりというか、教育に関わっていけたらいいなと思います。今、教えている子どもたちも、「自分も世界チャンピオンになる」と言ってくれるので、そういう夢を与えられるように、子どもたちとたくさん接していきたいですね。

Rude-α 僕が音楽の中で描いていることは、まだ実現できていなくて、前に進んでいる途中なんですけど、コロナになってからの3年間は、自分の中でも心が折れてた時がありました。その頃は東京に住んでいたんですけど、それで沖縄に帰ってきてても悶々としていました。でも最近、「一回失われたものが戻ってきたな」

沖縄市の魅力はチャンプルー文化。
空手を通して、子どもたちに夢を与えたい。(喜友名諒)

というのがあって、来月から東京に戻ることにしました。もう一度、自分が見られなかったものを自分の目に映して、自分の街に持って帰れたらいいなと思っています。本当に沖縄市が好きですし、できればここで暮らしたいのですが、でも僕の役目は外に出て、吸収したものを、この街の人の刺激になったり、夢として渡すことが自分の仕事なので、東京で頑張ります。

— ちゃんぶる～沖縄市大使として伝えたいことは？

喜友名 沖縄市の魅力であるチャンプルー文化を、日本全国、そして、世界へ発信していけたらいいなと思います。遠征で県外や



外国に行く機会も多いので、まずは身近な情報から伝えていきたいですね。

Rude-α 今年、沖縄市で開催されるバスケットのワールドカップに向けての曲を作っていたのですが、音楽を通して沖縄市の良さをアピールしていけたらいいなと考えています。それと、ちゃんぶる～沖縄市大使の皆さんで集まって何かイベントをするのはどうでしょう。それぞれのパフォーマンスでコラボするとか。僕がラップを歌っているそばで喜友名さんが空手の演武するとか。

喜友名 それ、面白いですね。以前、三線の方とコラボしたことがありますので、ラップも面白い。是非やりましょう。

— 本日はありがとうございました。

撮影協力：みやんち STUDIO&COFFEE